



倉内局長(右)がi-Con普及の功労者に賞状を手渡した

北海道開発局は9日、札幌第一合同庁舎で2020年度「i-Con奨励賞」の表彰式を開いた。ICT施工などで優れた成果を残した建設業12社、コンサル2社の代表2件を選出した。

倉内局長は若手入職者の減少や建設業の労働時間上限規制などに触れ「現場の機械化、省人化は必須だ。受賞者は北海道のトップランナーとして他をけん引する役割を

14社の成果たたえる

開発局がi-Con奨励賞

と技術者に、倉内公嘉局長が賞状と記念バッジを贈呈。i-Constructionのさらなる推進を呼び掛けた。

i-Con奨励賞は20年度、開発局が独自に設けた。表彰式では代表者に賞状を手渡し、担当技術者と若手技術者にはi-Constructionのロゴマークをあしらった記念バッジを贈呈した。

表彰式では代表者に賞状を手渡し、担当技術者と若手技術者にはi-Constructionのロゴマークをあしらった記念バッジを贈呈した。

「果たして欲しい」と激励。総合評価の加点など奨励賞のインセンティブ設定についても「今後希望があれば考えたい」と前向きな姿勢を見せた。

開発局 初のi-Conn奨励賞表彰式

トップランナーに

工事10者、業務2者に栄誉

開発局は9日、本年度創設したi-Conn奨励賞2020の表彰式を札幌第一合同庁舎で挙行了。倉内公嘉局長が受賞企業の代表者に表彰状、技術者にピンバッジを授与。生産性向上に資する取組を高く評価するとともに、「トップランナー」役を担ってほしい」と期待を寄せた。

本年度創設したi-Conn奨励賞では、工事部門で「須桑漁港ほか西防波堤改良」を施工した榑森川組(函館)や、「231号増毛町大別対トンネル補修ほか一連」を施工した榑堀口組(留

萌)など10者、業務部門では「稚内開建管内橋梁定期点検」を履行した日本データサービス(株)(札幌)など2者が栄誉に輝いた。

表彰状の授与後、式辞に立った倉内局長は、働き方改革を進める上で、i-Conn constructionの

取組が必要不可欠となっていることを強調。建設産業



の魅力を高め、若者の入職につなげることが重要となっていることから、i-Connに精力的に取り組んでいく企業を表彰し、本道のけん引役を担ってもらおうと奨励賞を創設した経緯を説明した。

倉内局長が表彰状を授与した

その上で、受賞者の取組を高く評価するとともに、「トップランナーの役割を担ってほしい」と呼びかけた。一方で、建設業界からの希望があれば、総合評価落札方式の加算についても検討していく考えを示した。

このあと、記念撮影を実施。受賞者たちは、晴れやかな表情で撮影に応じていた。